

赤井川村地域支え合い情報誌



右：昭和54年9月15日「赤井川村神社例大祭」(提供：福田 明美氏) 左上：令和元年6月6日
「今も続く村をあげての一大行事。村を離れていた人も、お祭りになれば赤井川村に戻ってきて大賑わいでした。」

あいさつ

初夏が訪れ、心も体も晴れやかになる季節です。散歩に出たり、畑の様子を眺めに行ったり、戸口でのんびり世間話をしてみたり・・・誰かと顔を合わせる機会が増えますね。そんな人と人との“つながり”を大切に育むために、今日も「たすけあい隊」は皆様のそばで邁進しています。

住み良い村への第一歩は皆様の声から始まります。そんな声を届けるためお一人お一人とご縁の中から活動して参ります。

(赤井川村たすけあい隊メンバー 一同)

2019. 7

NO.3

第3回 福祉の村づくり教室を開催しました

テーマ：京極町の取組から学ぶ お互いに支え合える村づくりを目指して

介護保険事業の一環として、「たすけあい隊」主催のもと第1回、2回と「福祉の村づくり教室」を開催してまいりました。第3回は7月3日、総勢43名の皆様のご参加を頂きました。

これまでの教室に引き続き、地域包括支援事業アドバイザーの篠原辰二氏による講話を開催。

また実践報告として、地域共生型福祉拠点「きょう・ここ」の介する支え合い活動についてNPO法人きょう・ここより理事3名と、京極町社会福祉協議会より生活支援コーディネーターをお呼びして事業着手から現在までの取組をお話し頂きました。



▲NPO法人きょう・ここ理事

また、京極町社協、NPO法人きょう・ここ理事お一人ずつと、グループに分かれての意見交流会を行いました。以下、意見交流の一部をご紹介します。(◆：参加者 ◇：京極町)

◆：自分も地域で役立てることをしたい！
でもどうしたらいいだろう…。
◇：まず第一歩！の思いを。生活上のほんの数時間でできることを思い切る勇気が大切。

◆：支え合い活動の中心になるとは、どのような仕組みになっていますか？
◇：困っている方と、担い手さんの結び合わせをきょうここで行っています。

◆：支え合い、とは誰でも？
◇：年齢問わず誰でも。子どもが高齢の方に料理を教わったりする場があったりなども。

◆：拠点では食堂を開かれていますか、元から職業としてされていたのですか？
◇：いいえ。何より食を大切にという想いからです。



この他にも多くの声が聞かれ、参加頂けたお一人お一人が「きょう・ここ」の支え合い活動の仕組みや、活動に至るまでの想いについて関心を寄せてくださいました。ご参加いただき誠にありがとうございました。

次回の村づくり教室は、来年2月頃の開催を予定しております。これからの赤井川村でできる支え合い活動のイメージを皆様で考える機会を持てるような場にできればと考えております。ご参加お待ちしております。

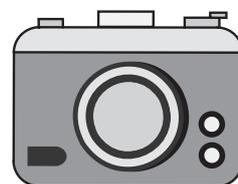
■《表紙の写真募集します》

赤井川村の中で撮られた、昔の写真を募集しています。撮られた年代、場所、どのような場面かなど、あわせてお知らせください。

他コーナーでも掲載されたい取組、人物、場所なども募集しています。

「生活支援コーディネーター 上妻」までご連絡ください。取材に伺います。

>>ご連絡先⇒健康支援センター 電話：0135-35-2050<<



「たすけあい隊」ロゴマークのご紹介



札幌市立大学デザイン学部
人間情報デザインコース3年
佐藤あみかさん作



「いろどり」タイトルロゴ
札幌市立大学デザイン学部
人間情報デザインコース2年
川上莉奈さん

((受賞者より作品について))

“たすけあい”という言葉の柔らかさから、完璧で完結したイメージである真円よりは楕円の方が適していると考えたため楕円の形状に収めました。

赤井川村の自然の中で「たすけあい隊」が太陽の光を受け輝いているような構図を採用し、その下には手を取り合って支え合い、助け合い、多様性の受け入れなどをイメージした握手の図を取り込みました。



授賞式には、赤井川村から「あかりん」もかけつけました！赤井川村産のお米を贈呈。佐藤さん(左)も思わず笑顔です

4月16日札幌市立大学にて、ロゴマーク選定表彰式を執り行いました。

今後も赤井川村の豊かな風土と魅力を広めていくため、このつながりを大切にさせて頂きたいとお伝えして参りました。

生活支援コーディネーターが増えました！

これで総勢4名となりました。今年度は活動の年、「地域のこまりごと」を自分たちの目で確かめ、赤井川村の地域づくりを支えて参ります！



上妻美加
(第1層コーディネーター)

4月より神恵内村から来ています。普段は健康支援センター勤務ですが、村内の活動の場に赴き、ご縁の中から活動を始めています。

赤井川村で皆様が築いたことを大切にしながら、お一人ずつの声を大切に聞いて参ります。よろしくお祈りします。



能登貴紀
(日ノ出・中央・母沢地区)

赤井川村には14年前に新規就農生として入り、今は日ノ出地区で農家として生活しています。住みよい村作りに参加できる事に、期待を膨らませております。

互いに支え合える地域になるような活動をしていけたらと思っております。皆様よろしくお祈りします。

引き続きコーディネーターを募集致しております。是非お問い合わせください。

赤井川村のお宝！



ゲートボール協会

昭和57年、部員14名から始まった活動は高齢者の体力づくりの場から、若者との交流のひとつときでもありました。

競技はコート1面、2チームに分かれて制限時間内で行います。歩く距離もほどよく、チーム戦でもあり熱の入るスポーツです！

現在の会員は9名、「ルールも簡単になったから、教えながら始めれば、誰でもできるようになりますよ」と仰ってくださいました。

現在は季節問わず屋内でのみ行われています。家の遠い方向同士は、車の乗り合いで来られることも。



←スパーク打撃。
ボールを2個連ねて手前の球を打ち、奥の球を飛ばす。

- 場所：赤井川村体育館
- 月日：第1・第3水曜日 13:30~15:30
- 年会費：3,000円
- 連絡先：高橋貞夫会長 または 役場教育委員会

書道教室

日の射す和室、ほんのり懐かしい香りがします。1人また1人と生徒さんが元気な挨拶とともに教室に揃ったら、教室は筆の準備運動から始まります。取材時は書道カードを作るとのことで、各々の個性にあふれた回でした。

現在の生徒さんは通年で13名。赤井川小・都小の両校から通われています。赤井川村には習い事が限られる、というお母さんたちの声と、もとよりブラックさん自身がワークショップを開いてきた経験もあり、教えの場を持たれたそうです。ほか年齢問わず、教えて頂くことも相談可能とのことです。

「生徒たちには字を書くことで自分と向き合って欲しい」との想いを持って、ご指導されています。



- 場所：生活改善センター 2階和室
- 日時：17:30~18:30
- 月謝：3,500円（月4回実施）
きょうだい割引あり
- 連絡先：生活支援センター 上妻まで

講師のブラック・あずささん。→書道連盟の師範・看板交付が認められています！





開催までの想い

当初、こんなに運動好きが多い村なら皆で運動会をやりたい!という強い想いがありました。

小さい村とはいえ、村の面積は280km²。お隣の小樽市よりも広い面積です。全村の交流を深める為、1200名だからこそ誰でも集える交流イベントを!と、地域おこし協力隊・鈴木隊員と村の実行委員による、第1回あかいがわ「運動村」が開催されました。



去年は7月での開催。総勢67名の参加でした

企画にあたり、地域を知る実行委員のご意見はとて頼もしく、更に地域の方々が声を掛け合って下さった結果、大勢の参加者が!

また鈴木隊員は、ふるさと納税の業務を担当している関係から、ふるさと納税関係事業者さまに協賛いただき、飲料の用意などの熱中症対策が出来ました。

1人では形にならないけれど、赤井川村の皆さんのおかげで「運動村」の大きな1歩を踏み出すことができました。

運動村のようす



通過ゲームに綱引き、豊富な競技に熱が入る!

当日は村の体育館に集まり、2チームに分かれて段ボールを落とさずに運ぶリレーや、ゲートボール協会の皆さんからコツを教わりながら「第1ゲート通過」等の競技が行われました。赤井川村〇×クイズでは「知らなかった〜!」との声が響きわたり、大いに盛り上がりました。老若男女問わず、一生懸命に仲間を応援しあう姿が印象的でした。

今年は秋に開催を検討中です。一番良い時期を今後の「運動村」の日にしていければと考えおります。沢山の方と一緒に汗をかき、笑い合える日を楽しみにしています!

※開催日が決まり次第、回覧板で周知させていただきます。宜しくお願いします!

<地域おこし協力隊・鈴木隊員>

この人は誰? この場所はどこ?

第3回 川崎 紀代美さん

川崎さんの作るメロン「ルピアレッド」(写真:右)は、ふるさと納税の返礼品となっています。毎日すくすくと育つ子どものように、一株一株の葉や茎を撫で愛情たっぷりに育てていらっしゃいます。



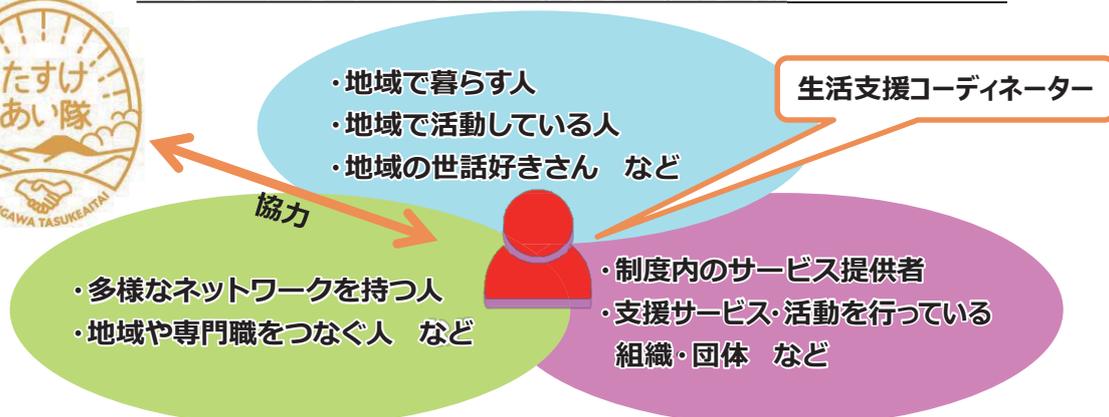
共に農業を営んでいたご主人を亡くし、一時は離農を考えたことも。しかし、ふるさと納税に関わったことをきっかけに、またメロンと共に生きることを決めました。

「直売所で人と顔を合わせて売ることも、美味しかったよと言われることも楽しみ。だから続けていられるの」と話されます。

いくつになっても人との繋がりが出来るのが楽しい。集まりにも参加できるように、少しでも長く元気で、毎日楽しく生きたい!と語る川崎さん。人の輪の中に生きることの大切さを教えてくださいました。

生活支援コーディネーターってどんな人？

人と人、人と場、人と支援などをつなぐ役割を担っています



生活の支援と介護予防のもと、地域のささえあい活動を促進していきます。
しかし支援の対象は高齢の方だけではなく「だれでも」

生活支援コーディネーターの4つの役割

普段の活動



地域にある活動や
つながりを把握します



住民の皆様にも
「いろどり」を通して
情報の発信をしていきます

ボランティア
活動



困りごとを解決する為の
つながりを作ります

個人や団体の中での問題を地域
や関係機関で共有していきます。

ささえあい活動を
促進します

「お互いさま」の心から地域づくりを。
活動は無理なくできる事から。

「やりたいこと」を
始める手助けをします

「あったらいいな」の声から、活動や
仕組みへつながっていきます。

私たちの活動は、皆様の声から始まります。

日常生活の中で、しくみの中で、
「こまりごと」がありましたら是非お寄せください。



発行日
発行・編集

令和元年7月12日（年4回発行）No.3
赤井川村たすけあい隊（赤井川村生活支援体制整備協議体）
事務局：赤井川村介護保険課
〒046-0501 余市郡赤井川村字赤井川318-1
（赤井川村健康支援センター内）
TEL:0135-35-2050 FAX:0135-35-2051
E-mail: kaigo2@akaigawa.com